

飼料の残留基準値の設定について 1

- 食品衛生法で定める穀物の基準値を準用し、飼料穀物の基準値を設定
- 諸外国の基準値等を参考とし、乾牧草の基準値を設定

例: アラクロール
の残留基準値



とうもろこし
0.2ppm



ライ麦
0.05ppm



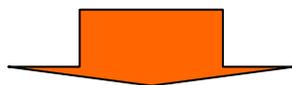
エン麦
0.1ppm



乾牧草
3ppm

穀類: 食品の暫定基準値に準じる

諸外国の基準値を参考

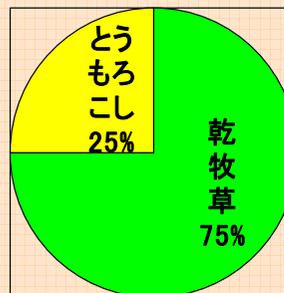


ワーストケースを想定

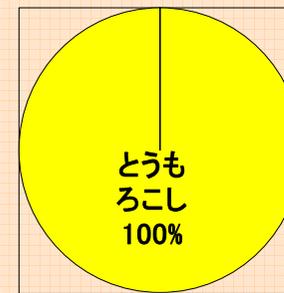
上記基準値を含む飼料を食べる場合の畜種毎の
最大摂取濃度を計算する。

計算方法は、FAOマニュアル※を参考

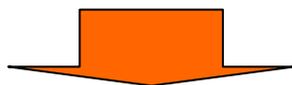
※ Submission and evaluation of pesticide residues data for the
estimation of maximum residue levels in food and feed



牛の最大摂取濃度
2.3ppm



豚、鶏の最大摂取濃度
0.2ppm



飼料の残留基準値の設定について 2

飼養試験の結果から、ワーストケースの飼料を食べ続けても、**食品衛生法の畜産物の基準値を遵守できることを確認**する。

飼養試験

アラクロールを含む飼料を給与

畜産物への残留量を調査



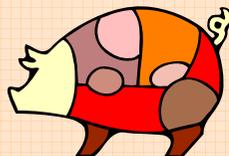
5ppmの飼料



乳の残留 <0.01ppm



5ppmの飼料



脂肪の残留 <0.02ppm



5ppmの飼料



卵の残留 <0.02ppm

ワーストケースの飼料
(牛:2.3ppm, 鶏、豚:0.2ppm)
を家畜等へ給与しても食品中の
暫定基準値を満たすことを
確認



暫定基準値
0.01ppm



暫定基準値
0.02ppm



豚の脂肪の
暫定基準値
0.02ppm

遵守可能な範囲でより厳しい基準値を設定